

＜自己紹介・取組紹介④＞

「ガス化ケミカルリサイクルによる
海洋プラスチックごみの資源循環の試み」

株式会社 レゾナック
プラスチックケミカルリサイクル推進室

室長 伊東 浩史

ガス化ケミカルリサイクルによる 海洋プラスチックごみの資源循環の試み

RESONAC

株式会社レゾナック
基礎化学品事業部 GX戦略推進部
プラスチックケミカルリサイクル推進室
2026年1月29日

目 次

- ① 自己紹介
- ② 使用済みプラスチックのケミカルリサイクルーKPRー
- ③ サーキュラーエコノミーへの取り組み
(資源循環型事業モデル「CirculaC」)

RESONAC

1 自己紹介



自己紹介

伊東 浩史

(株) レゾナック 基礎化学品事業部GX戦略推進部
プラスチックケミカルリサイクル推進室 室長



化学工学専攻

1994年 昭和電工株式会社（現 株式会社レゾナック）入社

生産技術、製造、生産管理などを経て、2023年より現職

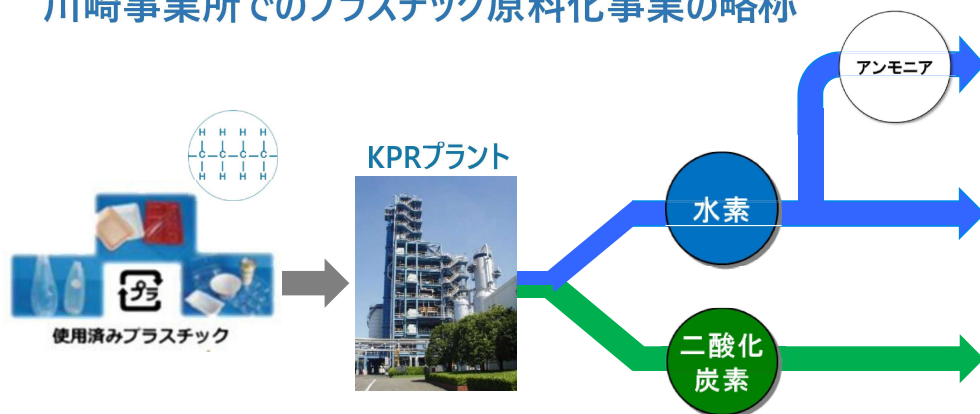
使用済みプラスチックのケミカルリサイクル事業の企画、調達、周知活動に従事中

② 使用済みプラスチックのケミカルリサイクル – KPR –

使用済みプラスチックのケミカルリサイクル – KPR –



KPR（ケーピーアール）
川崎事業所でのプラスチック原料化事業の略称



用途

※ケミカルリサイクル後の各製品を各需要家へご提供。

炭素繊維原料



ナイロン繊維原料



水素ホテル



炭酸飲料



接着剤原料



アクリル繊維原料



ドライアイス



脱硝用薬剤



医薬・農薬・肥料など



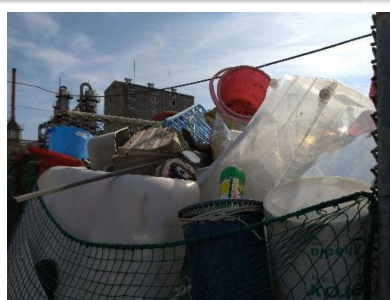
植物促成栽培



3 海洋プラスチックごみのガス化ケミカルリサイクルの試み

海洋プラスチックごみのガス化ケミカルリサイクルの試み

海洋プラスチックごみ、一体どんなものが・・・？



回収されたごみは手作業で分別されて種類ごとに保管。
“海洋プラスチック”と言っても**多種多様なごみ**がある

山積みのごみの中から処理可否を選別

< 川崎港で回収された主な海洋プラスチック >

○処理可能なもの	×処理不可なもの
<ul style="list-style-type: none">・カラーコーン・カゴ・ポリバケツ・プラ容器・ハンガー・レタートレー	<ul style="list-style-type: none">・ヘルメット（厚みがあり細断不可）・キャリーバッグ（厚みがあり細断不可）・電化製品・金属、ゴム等の異物を含んだもの



処理可能な海洋プラ



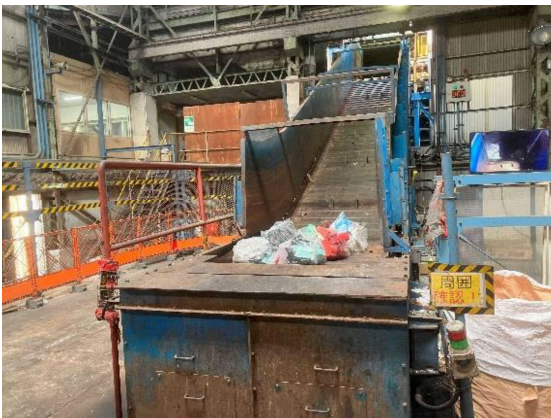
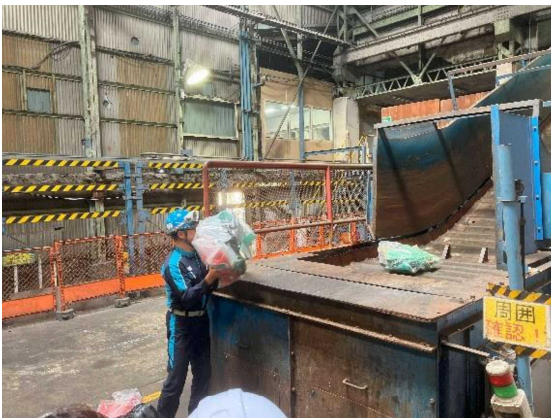
キャリーバッグ（処理不可）



ヘルメット（処理不可）

©Resonac Corporation All Rights Reserved. 9

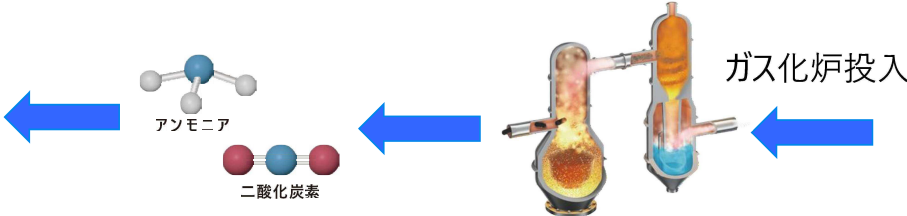
海洋プラを破砕機へ投入



ガス化炉原料に加工



さまざまな
化学工業製品に



©Resonac Corporation All Rights Reserved. 10

一般社団法人減災サステナブル技術協会が主催の

**「防災・減災×サステナブル大賞2025
スマートスアワード 最優秀賞」**

を川崎市様と共同受賞 !!



左から) レゾナック 小林化成品部長、減災サステナブル技術協会 浅沼博会長、
川崎市 山本隆之廃棄物政策担当部長

©Resonac Corporation All Rights Reserved. 11

RESONAC

<自己紹介・取組紹介⑥>

「建築業界を『もっと』サステイナブルに」

HUB & STOCK 株式会社
代表取締役社長 豊田 訓平



建築業界を『もっと』サステイナブルに
HUB&STOCK

HUB&STOCK株式会社とは



日本の「建築資材ロス問題」の解決に取り組む会社です。

この国において「資源循環の文化」を創造することを
目指しています。

※建築資材ロス問題とは、未使用資材が経済性を理由に大量廃棄されている問題です。

建築資材ロス問題とは？

建築資材ロス問題とは？

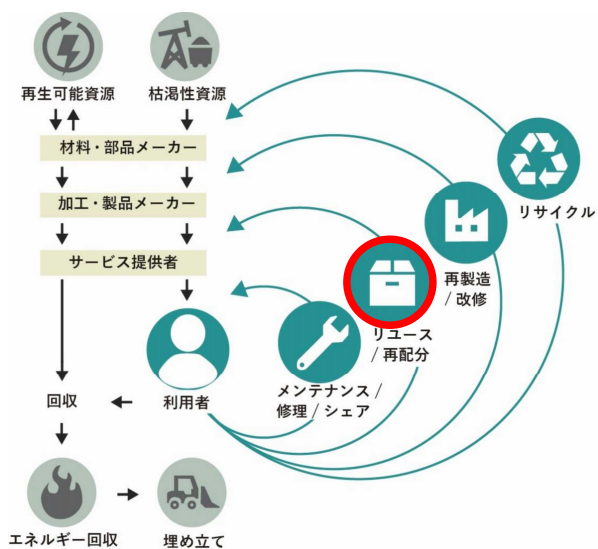


新品・未使用の建材が使われないまま廃棄されてしまう社会課題

リノベーション事例



リサイクルは最終手段 再利用のほうがエネルギー負荷が少ない





資材を捨てずに回収
そしてファーストチョイスへ



川崎市における建築資材ロスの可視化とリユースによる
都市型循環モデル実証事業

建築資材ロスを生む原因 は 「建築業界特有の商習慣」

過剰発注

廃盤商品

特注商品



建材特化型リユース市場が存在しない



事業目的

川崎市は、環境先進都市として、「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」や「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」の策定、事業者のグリーンイノベーション推進事業など、市民や事業者と協働しながら、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めている。今回、その取組の一環として、HUB&STOCK株式会社と共同で『川崎市における建築資材ロスの実態を具体的に可視化・構造化し、地域の資源循環スキームとして確立する』ことを目的として事業を行う。
特に以下のような地域課題の解決に取り組む。

川崎市では、令和17年度まで人口増と推計され、武蔵小杉・登戸地区などの再開発が進む都市特性から、年間約1万トンの建築資材ロスが発生していると想定される。また、その量や品目などが示された統計情報などが無い。

※1万トンの算出根拠：全国推定40万t × 人口比1.23%（川崎市） × 建設集積・再開発係数2.0

今後の更なる増加を見据え、実態の可視化と資源循環スキームの構築が求められる。

「成長と成熟の調和による
持続可能な最幸のまち かわさき」



株式会社 光洲産業

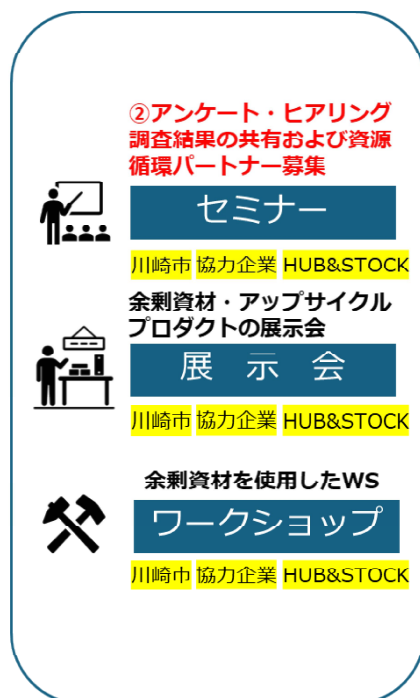
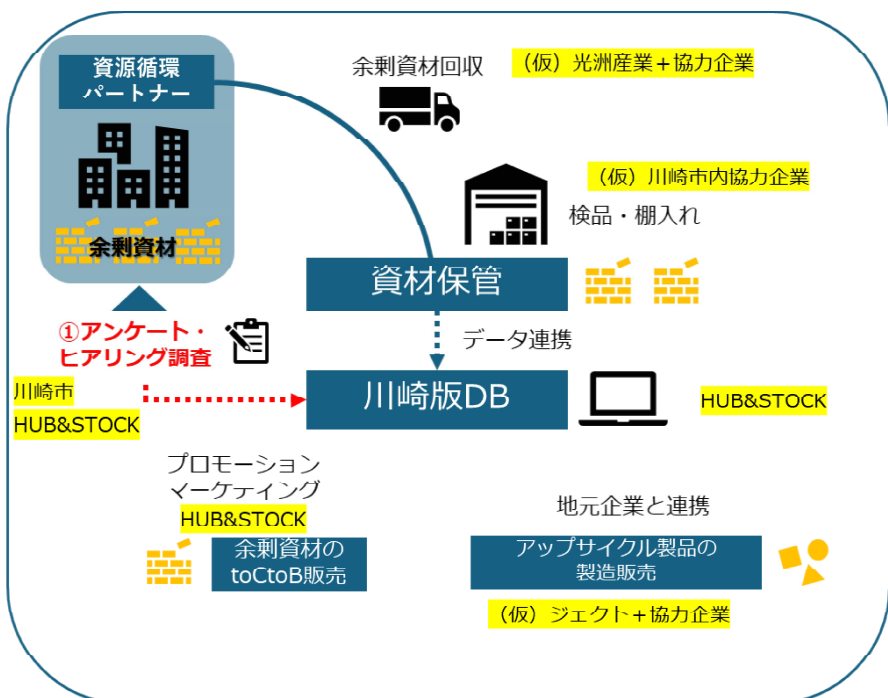
「処理するから資源循環へ」

HUB&STOCK

日本の建築資材ロスをゼロに

「資源循環の文化を創造する」

事業内容



日本の建築資材ロス問題

新品未使用の建材の年間廃棄量想定量

40万^ト_ン

処分費用 人件費 環境負荷

ワンルームマンションの原状回復工事に
換算すると、なんと400万室分に相当



事業としての継続性・発展性

本実証を起点に段階的な社会実装を図る。令和8年度は展示会・ワークショップを通じた周知と買取回収スキームの設計、令和9年度は運用テストおよびプロモーション・オンライン販売の試行、令和10年度には本格ローンチと他都市展開を視野に入れた拡充を行う。

想定実施項目	令和8年度		令和9年度		令和10年度	
展示会＋ワークショップによる建築資材ロス問題の周知	実施			立案	実施	
川崎市内の余剰建材の買取回収スキーム構築	スキーム探索	ステークホルダー交渉・合意	運用テスト		ローンチ	
HPやInstagramでのプロモーション戦略		立案	プロモーションテスト		実施	
デジタルカタログを活用したオンライン販売		立案	テスト販売		実施	

事業としての継続性・発展性

本事業の環境面・経済面・社会面における効果目標は以下の通り。

想定実施項目	指標	令和8年度	令和9年度	令和10年度
環境面における効果	建築資材ロス回収量	10.0トン/年	25.0トン/年	50.0トン/年
	建築資材ロス販売量	5.0トン/年	15.0トン/年	40.0トン/年
経済面における効果	販売金額総額(上代)	0.3億円	0.6億円	1.0億円
	産廃費用削減金額	125万円	250万円	500万円
社会面における効果	資源循環パートナー数	建築工事請負事業者 (60社)	建築工事請負事業者 (180社)	建築工事請負事業者 (300社)
		不動産流通事業者 (35社)	不動産流通事業者 (105社)	不動産流通事業者 (175社)
		アップサイクル事業者 (5社)	アップサイクル事業者 (15社)	アップサイクル事業者 (25社)
	建築資材ロス問題の認知	参加者全体の6割	参加者全体の7割	参加者全体の8割



建築資材を捨てずに回収
そしてファーストチョイスへ



資源循環の文化を社会に広める仲間になってください！



Plastics
Smart